令和３年度第６回　感染症発生動向調査部会

令和３年９月１５日
月番：馬場　尚志

１　前月の感染症発生動向について（2021 年第 31 週～34 週・8 月）

＜全数把握対象疾患＞

- 結核は毎週報告あり、発症者の中心は高齢者ではあるものの、10 歳未満および 20 歳代の報告例がそれぞれ 1 例ずつあり（本年累計の対前年同期比 75.5%、対前々年同期比 67.0%）。
- 腸管出血性大腸菌感染症は、第 31 週および第 32 週にあわせて 9 例報告あり（対前年同期比 170.6%、対前々年同期比 33.7%）。
- レジオネラ症は 2 例報告あり（対前年同期比 156.0%、対前々年同期比 97.5%）。
- 梅毒は 7 例報告あり。うち早期顕症 5 例はすべて男性で、女性は 80 歳以上の無症候例 2 例のみである。本年の累計数としては対前年同期比 111.6%、対前々年同期比 94.1%と大きな増減はないが、早期顕症例 33 例すべてが男性である（女性は無症候例のみ 9 例）。

＜定点把握対象疾患＞

- RS ウイルス感染症は減少傾向であり、少し遅れてピークを迎えた中濃圏域においても第 34 週には定点あたり 0.7 まで減少した。
- ヘルパンギーナは、岐阜圏域を中心に 143 例報告され、前月比は 80.5%と減少傾向であるものの、対前年同期比 14300.0%と大幅に増加している。全国的にも増加傾向である。
- 流行性角結膜炎は 24 例報告され、前月比 500.0%と増加傾向である（対前年同期比 600.0%、対前々年同期比 200.0%）。
- 性感染症定点疾患は、いずれも前年、前々年とほぼ同様の発生状況である。

２　検討すべき課題

- 本年増加がみられた小児科定点疾患の背景要因について（ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎）
- 梅毒（特に早期顕症）における背景要因について（継続）
- 基幹定点把握疾患の意義について（MRSA 感染症、PRSP 感染症、MDRP 感染症）

〈保健環境研究所から〉

- RS ウイルス感染症について

〈感染症対策推進課から〉

- STD 定点の変更について

３　情報提供すべき事項

- 昨年と比較して増加がみられる感染症について
- 秋に流行する感染症について（ツツガムシ病、など）

４　情報提供（月番委員専門分野から）

・　第 36 回日本環境感染学会総会・学術集会（名古屋：9 月 19 日・20 日）
https://www.jsipc2021.org/

・　日本感染症学会中日本・西日本地方会、日本化学療法学会西日本支部総会合同学会（岐阜：11 月 5 日～7 日）　https://www.c-linkage.co.jp/wm-jcid2021/index.html

・　新型コロナウイルス感染症の体外診断用医薬品（検査キット）の承認情報について
－厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_11331.html など

５　その他（感染症対策推進課から）

・　季節性インフルエンザワクチンの供給について

＜検討結果＞